

長野市立信里小学校



- (1) 学級数 6 学級
(2) 児童数 男子 28 名 女子 26 名 計 54 名
(3) 職員数 14 名
(4) 学校紹介

<http://www.nagano-ngn.ed.jp/nobusajs/index.html>

信里小学校は、長野市南部の篠ノ井駅から西方に 8 km ほど上った標高 667. 6m の丘陵地にある。歴史も古く開校 136 周年を迎えた伝統ある学校であり、二十数年を越えて花壇作りに継続して取り組んでいる。本校では、教育目標として「信里を語れる子ども」を据え、小規模学校の特色を生かしながら、体験活動を通してやさしさ・かしこさ・たくましさを持った豊かな自己を確立し、自信と誇りを持って、生まれ育った信里の地や人そして自分を、自分の言葉で語れる子どもの育成をめざしている。本校の子どもたちは、純朴で素直であり、温かい心を持った良く働く子どもたちである。しかし、物事に対する多様な考えが出にくかったり、指示されたことはしっかりやるが、自ら考え判断し、行動するような主体的でたくましい姿はあまり見られなかったりする。従って、本年度は、「進んで取り組む信里っ子」をキーワードに、①自分の思いを伝え合おう。②学ぶ楽しさを見つけよう。③自分の決めたことを続けよう。という重点目標を据えた。そして、それぞれの具現の場を、①は、さわやかあいさつ、朝のスピーチなど、②は、自分で考えて、みんなで話し合っ、学びを語り合っ、③は、運動・命を育てる・読書などとした。また、指導する側は、場を作り・見守り・支援することを合言葉に、日々指導に当たっている。

(5) 大会テーマの受けとめと研究のねらい

本校では、昨年度、算数科の研究テーマを「一人一人が解決への道筋を立て、考え、友に伝えようとする態度の育成」とし、更に、サブテーマとして「図形・数量単元での視覚機器を使った支援のあり方」を据え、全校授業研究会や一人一公開授業を通して研究を進めてきた。その結果、次のような成果と課題が見えてきた。

○問題解決学習について

- ・学習課題の設定は、既習の学習内容をつなげていくことが大切である。教師は、「本時にどんな力をつけるか。」児童にとっては、「本時に何を追究するか。」がはっきりした時、課題がすわったといえるのではないかと。
- ・「既習内容を使って」「既習内容と比較して」「着眼点を明らかにして」など解決への見通しを持たせてから、自力解決を目指すことが大切である。
- ・「どんなことができそうか。」「何を使ったらできそうか。」ということ予想の段階でつかませ、その「こと」「もの」へのこだわりを持たせる。更に、そのこだわりを共通事項として追究できるようにしていくことにより、追究内容から大きくずれることはないと思われる。

○「説明するということ」について

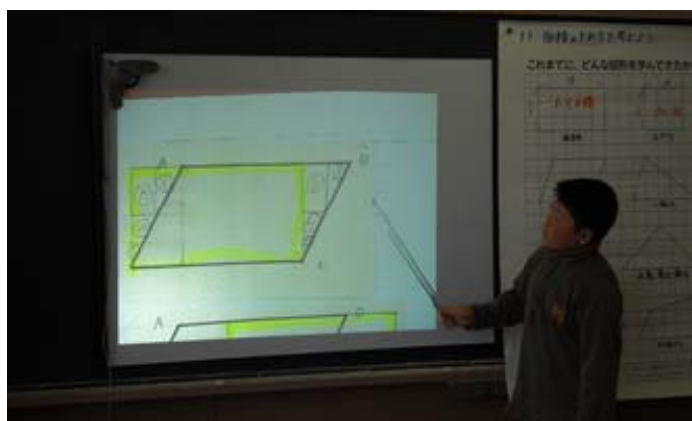
- ・説明をする必要感、説明を聞く必要感のある課題設定や授業設定を考えていくことが大切である。児童が説明の中でつまづいているところを源にして、解決をはかっていく良さを実感できる体験を多く持たせることも大切である。そういう必要感は、どのような場面で設定できるのか、今後の課題である。

○視覚機器の利用について

- ・機器に振り回されることなく、算数授業の骨格をしっかりとさせた上で、有効利用したい。過程がわかる、過程が見える、子どもたちの考えがお互いにわかる利用方法や機器の特性をどのような場でどう生かせるかについて研究を進めていきたい。

以上のことを踏まえ、本年度は、日々の授業の中で既習事項を効果的に利用することにより、一人一人が解決への見通しを持ち、自力解決への手がかりをつかんで、意欲的に課題追究できるのではないかと捉え、「既習事項を生かし

て、一人一人が自分自身で考え、数理を追究する楽しさを味わう授業」というテーマを据えた。更に、この授業展開のどのような場面で、どのような視覚機器を活用したら、児童の思考を助ける効果的活用になるかということも考えていきたい。このことは、大会主題のサブテーマ「教育メディアの効果的な活用を通して」に直接関わる部分であり、子どもの姿を通して探っていくことが研究のねらいである。



(6) 日常的な活用

○コンピューターシステムについて

パソコン室に、児童用デスクトップパソコンが12台、各教室にも1台ずつ設置されており、子どもたちの調べ学習などに活用されている。各教室の教師用パソコンは、パソコン室のサーバー及び職員室の大容量ハードディスクと無線LANで繋がっている。また、カラーレーザープリンタ2台、レーザープリンタ2台、インクジェットプリンタなどと接続しており、各階で、使用目的に応じて利用できるようになっている。

○映像機器について

各教室には、50インチの地デジ対応液晶テレビが設置されており、通常のテレビ放送や放送室からのビデオ映像の視聴はもちろんのこと、パソコンをはじめ、デジカメ、実物投影機、プレーヤー類が接続できるようになっており、各教科で利用されている。実物投影機は、資料の拡大提示や児童の発表説明に利用されている。また、電子黒板も5機あり、必要に応じて利用されている。

○記録機器について

デジタルカメラは、各担任に割り当てられており、主に子どもたちの活動記録に使われている。デジタルビデオカメラは2台あり、うち1台は、放送委員会の番組制作に使

われることが多い。

○スキャナーと拡大コピー機について

パソコン室にある教師用デスクトップパソコンとカラーレーザープリンタ（複合機）が接続されており、主に教材作りに利用されている。更に大きな表示には、職員室にある白黒ポスタープリンターで拡大コピーをして利用している。

(7) 研究を推進してきたの現時点での課題

前述のテーマに、更にサブテーマとして「復習・発表場面での視覚機器活用を通して」を据え、4年生わり算のしかたを考えよう「わり算の筆算(2)」で、実証授業を試みた結果、次のような課題が浮き彫りにされた。

○学習課題の設定について

本時では、「百の位に数が立たない $256 \div 4$ の筆算の仕方を考えよう。」という学習課題を設定したが、実際に子どもたちが迷っていたのは、商の「6」をどこに立てるかであった。従って、学習課題は、「商の6は、百の位、十の位のどこに立つのか考えてみよう。」で良かったのではないかと。子どもたちが、どこに問題を感じるのか十分予測して、学習課題を設定する必要がある。

○視覚機器の利用について

本時では、既習の筆算の復習として、スライドショーを見ながら、手順を確かめた。子どもたちにとって大変わかりやすく、本時の見通しにもつながったと思われる。また、追究の場面では、子どもたちの説明を実物投影機で写して実際に説明させた。ややわかりにくく、説明を残せないという課題があった。この方法は、説明が図式化されている場合や図形単元では有効であると思われる。更にどのような場面で、どのような視覚機器が有効なのか、研究を進めていきたい。

